

問題 1 30 点 (6 × 5 点)

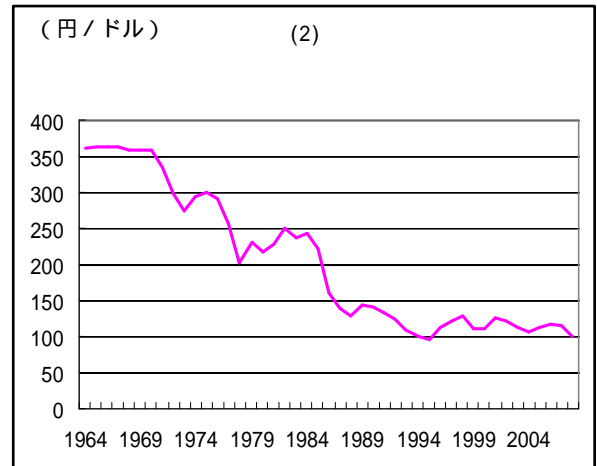
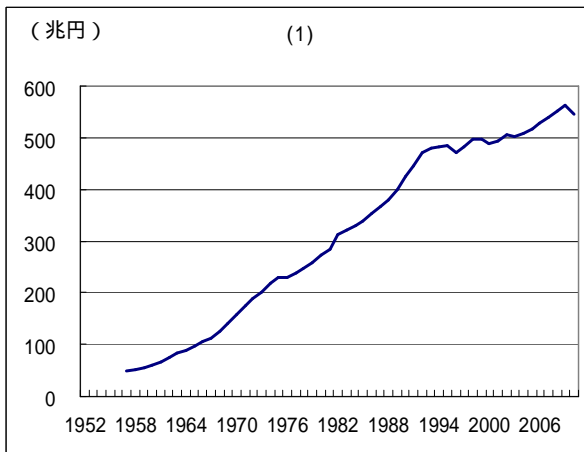
(1) 次の文章のカッコに入る言葉を埋めよ。

(1) は経済学の父とも呼ばれ、主著『国富論』で市場機能を「見えざる手」と表現した。(2) は、人口が等比級数的に増えるのに対して食料は等差級数的にしかふえないため、人口の抑制が重要だと説いた。

(3) は、大恐慌で大量の非自発失業者が発生した理由を、賃金の (4) で説明した。失業者をなくすためには有効需要を増やすことが重要で、財政政策を重視した。これに対し、新古典派のフリードマンは (5) 政策を重視した。基本的な主張は、(6) を一定の割合で増やすことにより、GDP も一定の割合で増やしていくのが望ましいというものである。

問題 2 10 点 (2 × 5 点)

次の (1)、(2) のグラフの経済指標名を書け。略号でなく日本語で書くこと。



問題 3 25 点 (5 × 5 点)

次の (1) から (5) の文章に関係あるもっともふさわしい経済用語は何か。正解は一つとは限らないが、そのうち一つだけ書くこと。

(1) 私は花子さんより料理もピアノも下手だが、どちらかといえば、私は料理の方が得意で、花さんはピアノのほうが得意である。この場合、私は料理に、花さんはピアノに専念したほうが、社会全体としては生産量は増える。

(2) 日本銀行はマネタリーベースを増やすことによって、貨幣供給量をそれ以上に増やすことができる。貨幣供給量をマネタリーベースで割ることで、その倍率 (乗数) を計算することができる。

(3) 経済政策の目標として、失業率を低下させることは重要だが、摩擦的失業などが原因で、どのような政策を使ってもなくすことのできない失業が存在する。

(4) 経済学では、子育ての費用を計算する場合、単に子育てにかかる費用だけを計算するわけではない。子育て選択せず、そのまま会社に勤めていたら得られたであろう所得も

費用として計算する。

(5) いざなぎ景気の頃、車、クーラー、カラーテレビが普及し、景気の拡大が続いた。

問題4 10点(2×5点)

国民経済計算の諸概念について以下の値が与えられている。

(1) 国内総生産、(2) 国民所得はいくらになるか。

最終消費支出 340 総固定資本形成 120 在庫品増加 10
財・サービス輸出 60 財・サービス輸入 40 固定資本減耗 30
間接税 - 補助金 20 海外からの要素所得の受取 20
海外からの要素所得の支払 10

問題5 (5点)

公衆が保有する現金通貨と預金通貨の額をそれぞれC、D、銀行部門が保有する支払い準備の額をRとする。

今、公衆の現金・預金比率(C/D)は0.3、銀行部門の支払準備・預金比率(R/D)は0.2であるとする。

ハイパワードマネーの量が50兆円であるとき、公衆が保有する預金通貨の額Dはいくらか。

問題6 (5点)

明治時代、小学校の先生の給料は10円だった。現在の小学校の先生の給料が20万円だとすると、「名目」の給料は、実に2万倍に増えている。しかしその間にモノの値段も上がっている。モノの値段があがれば、実際には買えるものの量は減ってしまう。明治時代の物価を1とすると現在の物価は4000である。これらの条件から、「実質」の給料は何倍になったと考えられるか。

問題7 (5点)

右の表を参考にして、2010年度の実質GDP成長率を予測し、その理由を書け。成長率は小数点第一位まで書くこと。

(正解があるわけではないので、書けば得点できます)

問題8 (10点)

授業での疑問点、感想などを書いてください。空欄の場合は0点です。

年度	実質GDP 成長率
1990	6.2
1991	2.3
1992	0.7
1993	-0.5
1994	1.5
1995	2.3
1996	2.9
1997	-0.0
1998	-1.5
1999	0.7
2000	2.6
2001	-0.8
2002	1.1
2003	2.1
2004	2.0
2005	2.3
2006	2.3
2007	1.8
2008	-3.7
2009	-2.0
2010	